

# ビジネス研究科グローバル経営研究専攻自己点検レポート

2015年11月30日作成

この自己点検報告書はグローバル経営研究専攻の開設から1年を経過した時点での実績の検証及び、今後への中期計画を策定する為の資料として作成され、教授会へ提出されるものである。資料として求められている項目は、教育実績（入学者数、入学者の国籍の多様性、教育内容、修了生の進路・就職支援等）及び、研究実績（教員および大学院生の研究業績）である。斜字体で自己点検の要約が示されている。

## 教育実績

2014年に専攻に移行したグローバル経営研究専攻の教育実績は良好である。入学者数に関しては、2015年度は前年比約1.5倍の44名となり、国費留学生の受入数も多く、量・質ともにレベルの高い学生の集まるプログラムになりつつある。内外の第三者評価においても期待されているように、日本において英語で質の高いMBAプログラムを提供することでユニークな社会的、そして国際的な貢献への取り組みに更に努めたい。

### 1. 入学者数に関して

以下の表に示されるように、グローバル経営研究専攻が開設された2014年度には、入学者数31名だったものの、2015年度には応募者54名、入学者44名と大きく入学者数が回復している状況である。

また、2014年度からは独立行政法人国際協力機構（JICA）が招聘するアフリカからの留学生（ABEプログラム）や、文科省の優先配置プログラムの学生を受け入れ始めるなど、日本政府の留学生招聘事業にも積極的に貢献している。

#### (1) 応募状況：グローバル経営研究専攻

2014年度	2015年度
53名	54名

#### (2) 入学者の状況：グローバル経営研究専攻

2014年度	2015年度
31名	44名

### ※参考

応募状況：ビジネス専攻グローバルMBAコース（2013年度で募集終了）

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
26名	28名	17名	39名	44名

入学者の状況：ビジネス専攻グローバルMBAコース（2013年度で受入終了）

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
20名	18名	11名	27名	41名

2016年度の学生募集の状況は上々で、来年度の目標値である45名も現実的なものとなっている。海外在住者が応募者の大半であるため、ウェブでの説明会、模擬授業を行っている。また公開授業を実施すると同時に、国内での留学生説明会などにも参加している。そして、同志社大学が主催、共催する海外、とりわけ、アジアでの学生募集活動に参加し、優秀な学生を世界から確保することに鋭意努力している。これまでの本専攻での受け入れ実績を踏まえ、2016年度も、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」、そして国際協力機構（JICA）招聘のABEプロジェクトの留学生を、少なくとも前年並み確保できる予定である。また、国際協力機構（JICA）が2017年から始めるアジア諸国・太平洋諸島諸国からの行政官、企業経営者の人材育成計画（JDS）プログラムにも応募し、レベルの高い留学生の確保に努めている。

2014年度に、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に応募し、採択された結果を受け、2015年度は更に6名の国費留学生を確保できることになり、国費留学生の受入数は、グローバルMBAコースであった頃から専攻化された現在までの過去7年の累積人数で38名となり、関西ではトップの国費留学生受け入れ数を誇るプログラムへと発展している。

#### 【国費外国人留学生の配置】

グローバル経営研究専攻

	2014年度	2015年度	合計
大使館推薦（2年）	-	1名	1名
優先配置（2年）	-	6名	6名
計	-	7名	7名

※参考 ビジネス専攻グローバルMBAコース

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	合計
大使館推薦（2年）	1名	2名	3名	3名	3名	12名
大学推薦（2年）	1名	-	1名	2名	2名	6名
国際化拠点整備事業（2年）	-	2名	-	-	-	2名
国際化拠点整備事業（18ヶ月）	-	-	-	1名	-	1名
国際化拠点整備事業（6ヶ月）	5名	2名	1名	-	2名	10名
計	7名	6名	5名	6名	7名	31名

#### 【外国政府奨学生の受入】

※参考 ビジネス専攻グローバルMBAコース

サウジアラビア政府奨学生

2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
2名	2名	0名	1名	2名

以上に加え、ほぼ毎年、スウェーデンのヨーテボリ大学、ドイツのテュービンゲン大学から交換留学生を数名受け入れており、正規の学生に異文化や勉学上の刺激を付与している。

## 2. 入学者の国籍の多様性

在籍学生の国籍の多様性は、教える側にも、学ぶ側にとっても重要な資産である。この点においては専攻の前身であるグローバルMBAコース創設年度から多数の国籍を確保し、毎年、新しい国籍が加わり、これまでの国籍数は56に達している。今後は、国籍の多様性は一層豊かになると判断している。

とりわけ、専攻移行後は、米国人入学者が増え、また「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の留学生受け入れにより、カザフスタンなどの中央アジア諸国、また国際協力機構のABEプロジェクトによって、アフリカ諸国から入学者が増えたことでその多様性を一層豊かにしている。国籍の多様性はそれ自体が、学生募集の大きな魅力になっており、日本政府の政策とコラボレーションする形で大変成功している。国籍の多様性に加え、男女の比率も毎年改善し、今年は男女比率がほぼ均衡するところまでに至っている。年齢的には、2014年度入学者の平均年齢が26.61歳、2015年度入学者の平均年齢が27.16歳である。課題は、日本国籍の学生が現在一人もいないことで、今後、本専攻の魅力を日本国内でも発信し、優秀な日本国籍の学生を確保したいと考えている。

### グローバル経営研究専攻の国籍多様性

	国籍・地域	ビジネス専攻GMBAコースからの国籍累計
2014年	16カ国・地域	44カ国・地域
2015年	24カ国・地域	56カ国・地域

アメリカ9人、イギリス1人、インド3人、インドネシア2人、エチオピア3人、エジプト1人、カザフスタン2人、カナダ3人、ケニア1人、サウスアフリカ9人、ザンビア1人、シンガポール1人、スウェーデン2人、セネガル1人、タイ3人、タジキスタン1人、タンザニア2人、トルコ1人、ドイツ2人、ハンガリー1人、フィリピン2人、フランス2人、ブルキナファソ1人、ベトナム4人、ポルトガル1人、モザンビーク1人、モロッコ1人、モーリタニア1人、ロシア2人、台湾1人、中国10人  
計：留学生総数75人、累計31カ国

### ※参考 ビジネス専攻グローバルMBAコースの国籍多様性

	国籍・地域	国籍累計
2009年	13か国・地域	13か国・地域
2010年	13カ国・地域	19か国・地域
2011年	10カ国・地域	24カ国・地域
2012年	15カ国・地域	29か国・地域
2013年	19カ国・地域	36カ国・地域

#### ※ビジネス専攻GMBAコースからの累積

出身国：①ASEAN（インドネシア5人、カンボジア1人、タイ11人、フィリピン5人、ベトナム7人、マレーシア3人、シンガポール1人）②東・西アジア（モンゴル1人、ジョージア1人）③インド等南西アジア（インド7人、ネパール2人、バングラディシュ1人）④ロシア及びCIS諸国（ロシア5人、ウズベキスタン1人、トルクメニスタン1人、カザフスタン2人、タジキスタン1人）⑤アフリカ（リビア1人、モロッコ1人、ボツワナ2人、エチオピア3人、エジプト1人、ケニア1人、南アフリカ9人、モザンビーク1人、タンザニア2人、ブルキナファソ1人、ザンビア1人、セネガル1人、モーリタニア1人）⑥中東（カタール3人、サウジアラビア7人、バーレーン2人、ヨルダン1人、トルコ1人）⑦中南米（ブラジル1人、ペルー2人、ベネズエラ1人、メキシコ5人、エルサルバドル1人）⑧中東欧（スイス1人、フランス3人、スペイン1人、ドイツ2人、スウェーデン2人、イギリス1人、ポルトガル1人、ハンガリー1人）⑨北米（アメリカ23人、カナダ8人）⑩その他（中国30人、台湾9人、香港1人、韓国3人、オーストラリア1人）

計：留学生総数191人、累計55カ国

### 3. 教育内容

教育内容は、国際的なユニークな教育内容を実践している。現在、本専攻教員8名は、日本国籍が2名、中国が1名、米国2名、英国1名、豪州1名、インド1名から構成され、教員もグローバルな視点での教育に努めている。講義は全て英語でおこなわれ、また、例えば、*Academy of International Business*（国際経営学会）会長のRosalie Tung教授を招聘するなど、世界レベルの教授たちによる3科目の集中講義（各2単位）が、普通のMBAカリキュラムにはない、グローバル経営研究専攻ならではの特色となっている。企業との授業協力も積極的に行われ、専攻化に伴い、演習科目（ゼミ）が手厚くなっている。また、日本語の習得を意識したカリキュラム配置となっている。

取得学位：修士（経営学） Master of Business Administration (MBA)

修業年数：2年間

修了に必要な取得単位数：46単位

必修科目：8単位

選択基礎科目群：16単位以上

グローバル・インテンシブ科目群：2単位以上

選択応用科目群：16単位以上

本専攻は、グローバル社会の要請、日本社会の要請、そして本学の持つ使命を踏まえ、世界中から集まる学生が、最先端の経営の基礎知識を習得するばかりでなく、サステナビリティとグリーン・ビジネス、文化と創造性ビジネス、アジアビジネス等の理解を持ち、社会的使命を持つ国際ビジネスリーダーとして日本と世界を結んで活躍することができる人材の育成を目的としている。学生は、2年間の修士課程において、最先端のグローバル社会の要求する経営学の知識の修得および実際の経営課題を解決する実践的な能力を身に付ける。本専攻の教育課程は、必修科目、選択基礎科目群、グローバル・インテンシブ科目群、選択応用科目群および修士論文またはリサーチプロジェクトレポートからなり、次のような科目群から構成される。

#### ● 必修科目

必修科目として「Critical and Analytical Thinking」および「Master Thesis and Research Project I～III」、合計4つの演習科目を設置する。1年次の最初のセメスターに開講する「Critical and Analytical Thinking」にて、ディベートやディスカッションを通じて、客観的・分析的に経営現象・事象を探求する態度を養った後、修士論文又は特定の課題についての研究成果（リサーチプロジェクトレポート）指導を行うための科目「Master Thesis and Research Project I～III」に進む。最初はセミナー形式によるグループ指導を受けるが、徐々に個別指導の割合を高め、最後の半年は、一対一の個別指導により、修士論文又は特定の課題についての研究成果（リサーチプロジェクトレポート）を完成させる。

#### ● 選択基礎科目群

この科目群は、グローバル経営の基礎的知識やスキルに関する選択基礎科目群 (Foundation subjects) と、グローバル経営の Perspectives に関する選択基礎科目群 (Perspectives subjects) の2区分で構成される。前者にて、いわゆるマネジメントの中の基本的なコア (Foundations) と言われる科目を設置し、グローバル経営を実行していくに当たってマネジメントに必要な基礎的知識やスキルを教授する。後者では、経営倫理やビジネスとグローバル社会の関わりに関する2科目を設置し、グローバル経営を実行していくに当たってビジネス等の組織のリーダーに必要な見識 (Perspectives) を養成、醸造する。

### ● グローバル・インテンシブ科目群

世界のトップ・ビジネススクールから教授を招聘し集中講義を実施する。戦略、組織、人的資源管理、国際関係と経営、マーケティング、中小企業と経営革新などの領域において、最先端の理論的・実践的知識を習得する。

### ● 選択応用科目群

この科目群は、サステナビリティとグリーン・ビジネス科目群、文化と創造性ビジネス科目群、アジアビジネス科目群、発展的マネジメント科目群の4つに区分され、国際ビジネスリーダーとして応用的かつ発展的な高度のマネジメント能力の育成、また、環境、文化、アジアビジネスへの理解を養う。学生はこれらの区分を自由に選択することにより、専門領域を特徴づけつつ、自らのキャリアプランや学習ニーズに合わせて履修科目をデザインすることができる。

#### ○ 海外協定大学との交換プログラムによる単位取得（10単位まで可）

交換留学制度を利用して、1クォーターないし1セメスターを協定大学で過ごし修得した単位は、本研究科教授会が認めた場合に、合計10単位まで、選択応用科目群の修了単位に算入することができる。

#### ○ 日本語MBAコースでの単位取得（10単位まで可）

日本語能力検定N1レベルの能力がある学生は、本研究科において日本語で提供されているMBAコースの科目を登録・履修が可能。これにより社会人が多数を占める日本人学生と活発な交流を行い、相互関係を深めることが可能である。

#### ○ 日本語・日本文化教育センター（留学生別科）提供の日本語科目

外国人留学生については、同志社大学日本語・日本文化教育センターが提供する日本語・日本文化教育科目を無料で履修することができる。（課程修了に必要な単位数には含めない。）

### ※参考

グローバル経営研究専では2016年度に最初の修了生を輩出の予定。以下は、ビジネス専攻グローバルMBAコース修了者のソリューションレポート・テーマ一覧

（2015年度修了生。なお、ソリューションレポートは、大学院生の研究業績に相応するものである。）

1. Introducing Japanese Lunchbox Concept to Elementary Schools in Saudi.
2. The Foreign Employment Sponsorship System in the Gulf Cooperation Council: Impacts and Transformation
3. Participative Decision Making in Bahraini Organizations
4. 3D Printing: The Business Opportunities for Graphic Designers and Illustrators
5. Integrated Sustainable Waste Management System in Penang: Opportunities For Private Sector Involvement
6. The Value of Cradle to Cradle Design Measured Using the Framework of the Triple Bottom Line
7. Improving Investment Environment in Uzbekistan
8. Sustainable Waste Management: Tire Disposal in Trinidad and Tobago
9. Sustainability Reporting in El Salvador: Adoption Initiative from an Institutional Theory Perspective
10. Introduction of Washoku in Ryokan: Safeguarding Intangible Cultural Heritage
11. Preservation, Innovation and Expansion in the Kyoto Traditional Industries:

- The Experience of Three Successful Companies
12. Case Study of Buy Direct From Farmers
  13. Sustainability Reporting in Peru: Analysis, Issues and Proposal
  14. Placemaking: Towards Building Sustainable Communities in Malaysia
  15. Japanese Anime Merchandise: Introducing GCC (Gulf Cooperation Council) as a Potential Market
  16. Rebranding Strategy to Improve Sales Performance:  
A Case Study of Murrah Dairy in Thailand
  17. Line Corporation in the U.S: Breaking Into The American Mobile App Market
  18. HRM 'Best Practice' in Thai-Japanese Joint Ventures of Manufacturing Industries in Thailand: A Case Study Approach
  19. Stand-Alone Solar Energy System: Overcoming the Suppressed Electricity Demand in Ghana
  20. Kyoto Machiya Business Activites, A business canvas analysis
  21. Empirical Study of the Heuristics and Cognitive Biases of Mexican Stock Market Participants:  
A Contrast between Investment Advisors and Individual Investors
  22. "Couture Abaya" Arabian Fashion Item: Exploring Potential in Japan's Fashion Market
  23. Challenges for Immigrant Entrepreneurs in Establishing and Developing Businesses in Japan:  
A Qualitative Approach Using Mix Embeddedness Framework
  24. The Impact of Corporate Social Performance on the Perceived Organizational Attractiveness as Future Employers of Japanese College Students
  25. A Framework for Valuing Corporate Sustainability: Perspective from Real Estate
  26. An Exploratory Study of Factors Influencing the Retention of Non-Family Member Employees in Small and Medium Size Family Business in Thailand
  27. Vertical Farming and Japan: Case Study of Spread Co., LTD.
  28. Easing Japan's Nursing Shortage with Midcareer Nurses and Nurses Admitted under Economic Partnership Agreements
  29. Innovative Solutions for Solar Energy without Governmental Subsidies in Switzerland
  30. The Potential of Cultural Experiences as a Service Offering For B&Bs in Taiwan
  31. Consumer Behavior Intention in Thailand towards Japanese-Inspired Dessert:  
A Study of Bangkok City, Thailand
  32. Historic Preservation as Sustainable Activity: Moscow Case
  33. Accounting Education and the Profession in China
  34. From AKB48 to SNH48:  
A Case Study to Understand AKB48's Business Success and Their Global Potentials
  35. What Factors can Influent Chinese Customers' Eco-Friendly Product Consuming Behavior?
  36. A Comparative Study of Medical Tourism between Singapore and Japan
  37. The Shortage of Agriculture Workers in China under Human Resources Perspective

#### 4. 修了生の進路・就職指導

グローバル経営研究専攻は、最初の修了生が2016年9月に発生する為、現時点での就職実績はない。しかし、専攻の前身であるビジネス専攻GMBAコースではこれまでに5回の修了生を送り出している。就職指導は、対象が海外からの留学生であり、しかも、社会人留学生であることから、大学における普通の学部生の就職指導に加えて、ビジネススクールの就職指導担当が指導をしている。また、入学のオリエンテーション時から、日本関連企業に就職する場合の、日本語習得の重要性を説明している。今後は、大学のキャリアセンターとの連携を深める予定である。初年度から今まで、伊藤忠商事、三菱東京UFJ、東芝、楽天、NTT データなど日本のトップ企業に就職する学生や、母国の一流企業への就職など、更に、研究職（大学）への就職や博士課程などに、進む修了生も生まれている。日本や海外で活躍する修了生を送り出し、今後一層、量的にも、質的にも発展すると判断できる。

##### 1) 受入留学生のキャリアパスのビジョン

グローバル経営研究専攻では、日本に強い関心を持ち、直接的・間接的に我国の経済や社会に寄与できる人物あるいは学んだビジネス知識を母国へ持ち帰り自国の経済発展に貢献すると共に、母国と日本の市場や文化の架け橋的存在となる人物を育てている。

修了者に期待される重要な点は、単なるグローバルな経営知識の修得だけでなく、環境ビジネスやコンテンツ産業などについての最先端の経営を学び、日本文化・社会を理解し、それを基礎に企業の社会貢献や日本と母国の経済発展を支援する人材となることである。特に、社会的責任（SR）の実現を果たすことができるビジネスリーダーとして活躍することが強く望まれる。なお修了後に想定される進路としては、以下の3点があげられる。

- ① 日本国内の企業に就職し、高い語学力とビジネススキル、異文化コミュニケーション能力を活用してグローバル経営に貢献する。
- ② 母国の日系企業や日本との取引が多い企業、また日本とのビジネス開拓を望む企業に就職し、日本語や日本の企業文化に明るい強みを活かし第一線で活躍する。
- ③ 出身国の政府諸機関や NGO、国際機関等で働き、経済的・文化的側面で、世界と日本に寄与する。

##### 修了生の就職・進路状況

※参考 ビジネス専攻グローバル MBA コース修了者の主な就職実績  
(グローバル経営研究専攻では 2016 年度に最初の修了生を輩出。)

2014 年度（春学期末ならびに秋学期末修了生）一覧

入学年度	性別	国籍	就職先	勤務地
2012	女	フィリピン	同志社大学大学院 博士課程教育 リーディングプログラム：グローバル・リソース・マネジメント	日本
2012	女	中国	京都銀行	日本

2012	男	台湾	近江兄弟社	日本
2012	男	タイ	JOLI SNOB, Co., Ltd.	タイ
2012	女	アメリカ	山田電器工業株式会社	日本
2012	男	タイ	Primestreet Advisory	タイ
2012	女	中国	山田電器工業株式会社	日本
2012	女	韓国	進学希望	韓国
2012	男	メキシコ	京都大学大学院博士課程進学	日本
2012	男	インド	堀場テクノサービス	日本
2012	女	タイ	楽天	日本
2011	男	台湾	チャイナエアライン	台湾
2012	男	アメリカ	京都北山特許法律事務所	日本
2012	男	カナダ	Archer, Cathro & Associates	カナダ
2012	男	中国	ワークスアプリケーションズグループ	日本

2015年度（春学期末修了生）一覧

入学年度	性別	国籍	就職先	勤務地
2012	女	アメリカ	公益財団法人神戸国際協力交流センター	日本
2012	女	サウジアラビア	関西インターナショナルスクール	日本
2013	男	カタール	Qatar gas	カタール
2013	男	バーレーン	Central Bank of Bahrain	バーレーン
2013	女	マレーシア	Sime Darby Berhad	マレーシア
2013	男	カナダ	インテグラート（株）	日本
2013	男	ウズベキスタン	荏原製作所	日本
2013	男	エルサルバドル	三菱ふそう	日本
2013	女	ロシア	NTT データ	日本
2013	男	フランス	東芝	日本
2013	女	台湾	霧のいけうち	日本
2013	女	サウジアラビア	Nippon Sayko Store	サウジアラビア
2013	男	アメリカ	Nagase	アメリカ
2013	男	タイ	NIPRO	タイ
2013	男	スペイン	ConCom Japan	日本
2013	男	メキシコ	Shanghai Ventures	メキシコ
2013	女	ベトナム	株式会社ワークスアプリケーションズ	日本
2013	女	フィリピン	ヤマハ発動機	日本
2013	女	タイ	ARIYA EQUIPMENT CO., LTD	タイ
2013	男	アメリカ	株式会社トレード	日本
2013	男	アメリカ	大学講師	日本



2013	女	台湾	会社名不明	台湾
2013	女	ロシア	Tabitabi.ru	日本
2013	男	中国	山田電器工業株式会社	日本

## 2) 世界各国を結ぶ修了生ネットワークの確立

### ・修了生ネットワークを軸とした同志社グローバルMBAホルダーの交流の強化

本専攻の留学生の出身国は様々であり、修了生が持つネットワークは世界中を網羅することになる。すでにFacebookやLinkedInを利用して、修了生と在学生在が活発に交流・情報交換を行っている。また本研究科の日本語MBAコース（ビジネス専攻）の修了生ネットワーク（DBSN）との連携も現時点で活発化している。

### ・次世代の学生へのサポート・循環の確立

修了生ネットワークを通して情報交換をすることで、インターンシップ情報の提供やマーケティング・プロジェクトなどの共同研究実施などの可能性が期待される。また多様な分野でビジネスリーダーとして活躍する同志社グローバルMBAホルダーの存在に触発された企業への就職斡旋など、在在生にとって大変有益となる様々な機会が見込まれる。特に新興国にとっては、自国の経済発展に役立つ最先端のビジネス知識を修得して帰国する学生は貴重な戦力となる。また修了生のネットワークを通じてグローバルかつ高度な人材の雇用を確保することに興味を持つ国内外の企業や、このような学生を育成するために奨学金の寄付を行う企業などの開拓を進め、学生サポートの循環を作りたい。

## 5. その他 ―国際認証や国際的良心教育へ向けての取り組み

### ・責任ある経営教育原則（PRME、プライム）への参加

PRMEは国連が推奨するイニシアティブであり、世界中の学術機関における責任ある経営に関する教育・研究を促進し唱導するもので、国連グローバル・コンパクト・リーダーズ・サミット2007において創設。具体的な例としては、カリキュラムや研究活動の中に「サステナビリティ」や「企業の社会的責任」等に関する諸問題に対応するための視点を組み込むことを奨励するシステム等があげられる。2012年、グローバルMBAコースがイニシアティブをとり、同志社ビジネススクールは、ビジネススクールとしては日本で2校目にPRMEに参加した。グローバル経営研究専攻の設立に伴い、今後は、専攻が参加組織となり、毎年、PRMEに活動報告を行っていく。

なお、同志社大学は、グローバルコンパクトの批准団体である。グローバルコンパクトの日本における推進団体としては、グローバルコンパクト・ジャパンネットワークがあり、表彰を連続して受けるほどの活発な活動を行っている。今後は、このグローバルコンパクト・ジャパンネットワークの活動に、学術機関として、積極的に関わっていくプロジェクトが立ち上がっている。

### ・国際認証取得について

European Foundation for Management Development (EFMD)は、マネジメント教育のクオリ

ティについて認定を行うヨーロッパを起点とした国際的な認証機関である。すぐれたMBA教育・研究を行う大学・大学院に対して、認証評価を与える組織であり、国際認証 EPAS (EFMD Program Accreditation System) は、EFMD が実施する評価・認証システムのうち、ビジネススクール等の個別のプログラムを対象として、国際的かつ高度なマネジメント教育・研究を行っているプログラムに与えられるものである。将来的には、グローバル経営研究専攻は、EFMD の EPAS の取得を目指しており、この挑戦により、世界水準の教育の提供を目指す。そのために、2015 年には、認証セミナーに参加し、認証取得についての情報を収集している。

また、Association to Advance Collegiate Schools of Business (AACSB)は、同じく、マネジメント教育のクオリティについて認定を行うアメリカを起点とした国際的な認証機関である。2014 年度に認証の仕組みが見直され、ユニットでの認証も可能となった。そのため、EFMD の EPAS だけではなく、AACSB の認証も視野に入れ、2015 年には、AACSB のアジア太平洋責任者との会合や、認証セミナーに参加し、関連情報の収集に当たっている。

#### ・ アドミン体制の脆弱性について

現在、グローバル経営研究専攻では、多くの多国籍の学生に対しての大きな責任を、非常に少人数の専任教員と専任職員が負担しており、他の研究科・機関や、ビジネススクール内の日本語MBAと比べても、アドミンの体制がきわめて脆弱である。その一つの原因としては、学生や研究上の対応では高度の英語力が必要なうえに、外部機関や学内との関係には高度の日本語能力、加えて異文化との対応能力が必要だからである。加えて、任期付き教員が多く、テニユアのある教員が少ないことも一因である。そのため、一部の教員や職員に大きな負担がかかり、学生確保や学生サービスにも影響を及ぼしており、たとえ学生のためのプログラムを企画・運用するための資金の提供があり、その企画を思いつくことができても、実際にはそのプログラムの企画・実施に乗り出せないなどの問題が起こっている。これは、大学やビジネス研究科が教育責任を果たして運営し、学生確保をしていくためには、早急に是正の必要な問題となっている。また、アドミンの脆弱性は、一部の教員の研究活動を大きく阻害しており、世界的レベルの教育を施すことを約束するグローバル経営研究専攻は早急にこの点を解決する必要がある。

グローバル経営研究専攻の運営に責任を有する教員の研究実績  
(過去5年間：2011-2015)

現在、グローバル経営研究専攻の運営に責任を有する専任教員（テニユア）は3名（飯塚、スガイ、殷）であり、その他に、客員1名（クレイグ）、任期付の専任教員4名（松本、Jackson、Johns、Sharma）で運営されている。先にも述べたように、日本語と英語の両方を必要とされるアドミンの仕事が特に一部の専任教員の研究を阻害する大きな原因になりつつあり、今後教員配置と事務体制の脆弱性の面での大いなる改善が求められる。教員がアドミンに忙殺されずに、研究時間を確保できる状況を作るべきであると考え。長い目で見ると、世界レベルの研究こそが、世界レベルの教育を保証する条件となるからである。また、この点は、今後、国際認証の取得にとっても、非常に重大なポイントとなる。

飯塚まり

**研究活動の概要**

企業と社会（CSR等）。特に途上国の経営（組織）と格差、グローバルコンパクト。2014年度からは、マインドフルネスとグローバル経営やリーダーシップ、ウェルネスとの関連、およびそのグローバル社会（国連、OECD等）における影響。

**出版業績**

Iizuka, M. (2016) Globalization and the Inequality Trap: An Ethnography of Philippine Capitalism. Hampshire, U.K., Palgrave Macmillan (Forthcoming)

Kondo, M. (2015) “The role of business school education for Japanese and non-Japanese women in Japan” in Flynn, Haynes and Kilgour (eds) Integrating Gender Equality into Business and Management Education, Sheffield, U.K., Greenleaf

Kondo, M. (2014) “Global Compact Corporations in Japan and Their Reporting: Trends and Issues” in Noronha (ed.) Corporate Social Disclosure: Critical Perspectives in China and Japan. Hampshire, U.K., Palgrave Macmillan.

Kondo, M. (2014) “The Business System of the Philippines” in eds. Hasegawa and Noronha, Asian Business & Management- Theory, Practice and Perspectives, 2nd ed. New York: Palgrave Macmillan.

Kondo, M. (2013) “The Philippines” in Witt and Redding (eds.) Oxford Handbook of Asian Business Systems. Oxford, Oxford University Press.

Iguchi, Y. Kondo, M. (2011) “Theatrical Hotel and Cultural Tourism – A study of

## **Philip Sugai**

### Overview

My current areas include: value as it relates to Service Dominant Logic (SDL), waste as it relates to the value-creation/value-destruction paradigm, innovation, and mobile/wireless consumer behavior. The emphasis of my most recent research revolves around how value is innovated, created, and co-created across an entire ecosystem, and my most recent book delves into this concept in detail. I am currently in the process of collecting a series of case studies in Japan and in markets globally to support and enhance the theoretical concepts outlined in my book, *The Value Plan*, and have been speaking regularly to global business executives about how to effectively apply these concepts to their own marketing strategies for greater long-term success.

### **Books**

1. Sugai, P., *The Value Plan*, Leanpub Publishing Platform, Non-refereed reading, 234 pages, June, 2015, Victoria, BC, Canada.
2. Sugai, P., Koeder, M. & Ciferri, L. (November, 2011) *The Six Immutable Laws of Mobile Business*, Random House, Korea, 332 Pages, ISBN: 978-89-255-4305-5

### **Academic Journal Papers**

1. Waste vs. Challenge: Consumer Insights and Strategic Implications of Unused Technology Product Capabilities and Features, Sugai, P. and Aroean, L., *Kindai Management Review*, Referee reading, Vol. 2, 2014, March, pp. 106-117
2. An analysis of anger responses within the context of virtualized consumption of Hatsune Miku, Aroean, L. and Sugai, P. (2013), *Advances in Consumer Research*, Referee reading, 2013

### **Conference Publications**

1. What is waste? Defining and formulating a marketing concept of waste, Sugai, P. and Aroean, L., *Proceedings of the Annual Conference of the Academy of Marketing Science*, Referee reading, Monterey, CA, May 15th - 18th, 2013
2. Study of consumer attitudes towards connected e-book reader devices based on the decomposed theory of planned behavior, Koeder, Marco and Sugai, Philip, *Proceedings of the International Telecommunications Society Asia-Pacific Regional Conference*, Referee reading, Taipei, Taiwan, June 26th - 28th, 2011
3. Study of consumer attitudes towards connected reader devices in Japan based on the decomposed Theory of Planned Behavior, Koeder, M., Mohammed, U. & Sugai, P. *Economics and Management Series*, International University of Japan, Not referee reading, 2011

### **Case Studies**

1. Hatsune Miku: Virtual Idol Ignites Global Value Co-Creation, Craig, T., Sugai, P., Aroean, L.,

Richard Ivey Business School Publishing, Non-refereed reading , 16 pages, Jan. 8, 2015.

### **Invited Lectures**

1. The Value Mindset, Sugai, P., Invited Lecture, J. Walter Thompson Japan, Oct. 9, 2015, Tokyo, Japan.
2. The Value Plan, Essential Tools for Marketing Strategy, Sugai, P., Invited Lecture, Japan International Cooperation Agency (JICA), Sept. 22 - 23, 2015, Kobe, Japan.
3. Who was your Marketing Professor? Achieving greater success with a Value Mindset. Sugai, P., Invited Lecture, American Chamber of Commerce, Sept. 4, 2015, Tokyo, Japan.
4. The Value Mindset, essential lessons for Entrepreneurs, Sugai, P., Invited Lecture, Kansai Scene Magazine, April 11, 2015, Osaka, Japan.

### **Editor for Japanese journals**

1. Associate Editor, *The Japan Society of Information and Communications Research*, 2013 - 2015

### **Visiting Professor**

Stanford University, Kyoto Overseas Campus

### **Yong Yin**

Overview

My current areas include: Flexible and Agile Organization (FAO), Manufacturing Strategy, Sustainable Business, and Product Design Comparison. In the FAO area, we have achieved a lot of progresses. We published a lot of paper in the prestigious academic journals, organized several focused workshops, and received awards. We focus on the case of Japanese *seru* production systems, investigate the interrelationship between the flexibility and agility of organizations. As business organizations strive to improve the performance of their processes in a highly competitive environment, our research need to provide a useful method that helps organizations obtain flexibility, agility, and productivity simultaneously.

### **Books**

1. 東日本大震災の地域経済への影響：企業経営・雇用・金融, 山形大学人文学部叢書 2013年3月.
2. *Data Mining: Concepts, Methods and Applications in Management and Engineering Design*, Springer-Verlag; 1st Ed. (January 29, 2011).

### **Academic Journal Papers**

3. Y.Yin, I.Kaku and C.G.Liu "Management of overlapped cross-training: with or without a supervisor?", *Asian Journal of Management Science and Applications*, accepted, 2015.
4. Y.Yu, J.Tang, Y.Yin and I.Kaku "Comparison of two typical scheduling rules of line-seru

- conversion problem", *Asian Journal of Management Science and Applications*, accepted, 2015.
5. C.G.Liu, F.Dang, W.Li, J.Lian, S.Evans and Y.Yin "Production planning of multi-stage multi-option *seru* production systems with sustainable measures", *Journal of Cleaner Production*, Vol.105, No.15, pp.285-299, 2015.
  6. C.G.Liu, J.Yang, J.Lian, W.Li, S.Evans and Y.Yin "Sustainable performance oriented operational decision-making of single machine systems with deterministic product arrival time", *Journal of Cleaner Production*, Vol.85, No.15, pp.318-330, 2014.
  7. Y.Yu, J.Tang, Y.Yin and I.Kaku "Mathematical analysis and solutions for multi-objective line-cell conversion problem", *European Journal of Operational Research*, Vol.236, No.2, pp.774-786, 2014.
  8. Y.Yin, C.G.Liu and I.Kaku "Some underlying mathematical definitions and principles for cellular manufacturing", *Asia-Pacific Journal of Operational Research*, Vol.31, No.1, pp.1-22, 2014.
  9. J.Lian, C.G.Liu, W.J.Li, S.Evans and Y.Yin "Formation of independent manufacturing cells with the consideration of multiple identical machines", *International Journal of Production Research*, Vol.52, No.5, pp.1363-1400, 2014.
  10. C.G.Liu, K.E.Stecke, J.Lian, and Y.Yin "An implementation framework for *seru* production", *International Transactions in Operational Research*, Vol.21, No.1, pp.1-19, 2014.
  11. Y.Yin, I.Kaku and C.G.Liu "Product architecture, product development process, system integrator and product global performance", *Production Planning & Control*, Vol.25, No.3, pp.203-219, 2014.
  12. Y.Yu, J.Tang, Y.Yin and I.Kaku "Reducing worker(s) by converting assembly line into a pure cell system", *International Journal of Production Economics*, Vol.145, No.2, pp.799-806, 2013.
  13. C.G.Liu, N.Yang, W.J.Li, J.Lian, S.Evans and Y.Yin "Training and assignment of multi-skilled workers for implementing *seru* production systems", *International Journal of Advanced Manufacturing Technology*, Vol.69, Nos.5-8, pp.937-959, 2013.
  14. Y.Yu, J.Tang, W.Sun, Y.Yin and I.Kaku "Combining local search into non-dominated sorting for multi-objective line-cell conversion problem", *International Journal of Computer Integrated Manufacturing*, Vol.26, No.4, pp.316-326, 2013.
  15. J.Sun, M. Matsui and Y.Yin "Supplier risk management: an economic model of P-chart considered due-date and quality risks", *International Journal of Production Economics*, Vol.139, No.1, pp.58-64, 2012.
  16. Y.Yu, J.Gong, J.Tang, Y.Yin and I.Kaku "How to carry out assembly line-cell conversion? A discussion based on factor analysis of system performance improvements", *International Journal of Production Research*, Vol.50, No.18, pp.5259-5280, 2012.
  17. C.G.Liu, W.J.Li, J.Lian and Y.Yin "Reconfiguration of assembly systems: from conveyor

- assembly line to *seru*", *Journal of Manufacturing Systems*, Vol.31, No.3, pp.312-325, 2012.
18. K.E.Stecke, Y.Yin, I.Kaku and Y.Murase "Seru: The organizational extension of JIT for a super-talent factory", *International Journal of Strategic Decision Sciences*, Vol.3, No.1, pp.105-118, 2012.
  19. Y.Yin, C.G.Liu and I.Kaku "Cooperation and leadership policies in a serial supply chain", *Journal of Manufacturing Systems*, Vol.30, No.1, pp.1-7, 2011.
  20. Y.Yin, M.Li, I.Kaku and C.G.Liu "Design a just-in-time organization system using a stochastic gradient algorithm", *ICIC Express Letters - An International Journal of Research and Surveys*, Vol.5, No.5, pp.1739-1745, 2011.

### Conference Publications

1. Y.Yu, J.Tang, W.Sun, Y.Yin and I.Kaku "Line-hybrid *seru* system conversion: models, complexities, properties, solutions and insights", *2015 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2015)*, September 12-13, 2015, Dalian, China.
2. Y.Yin, C.G.Liu and I.Kaku "The supply chain design in Japan's auto industry", *The 4<sup>th</sup> International Conference on Industrial Engineering and Operations Management (IEOM 2014)*, January 7-9, 2014, Bali, Indonesia,
3. W.J.Li, C.G.Liu, J.Lian and Y.Yin "Framework development and operational measurement of enabling technologies for *seru* production", *2013 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2013)*, December 21-23, 2013, Kunming, China.
4. J.Wang, H.Liu, P.Qu and Y.Yin "Design and operations of *seru* manufacturing: case study", *The 6<sup>th</sup> PSU-UNS International Conference on Engineering and Technology (ICET-2013)*, May 15-17, 2013, Novi Sad, Serbia.
5. I.Kaku, D.X.Jiang, R.Q.Zhang and Y.Yin "How to solve the new product design model considered life-cycle and product architectures", *11<sup>th</sup> Global Conference on Sustainable Manufacturing*, Sep 23-25, 2013, Berlin, Germany.
6. I.Kaku, Y.Yu, J.F.Tang, J.Gong, C.G.Liu and Y.Yin "Several cognitive and theoretical insights on line-cell conversion", *CCDC 2012 : 24<sup>th</sup> Chinese Control and Decision Conference*, May 23-25, 2012, Taiyuan, China.
7. I.Kaku, D.Jiang, T.Shinzato, M.Hoshino, Y.Yin and Y.Yu "Definition, model and algorithm of new product design considering life cycle and architectures", the *International Symposium on Reliability Engineering and Risk Management (ISRERM'2012)*, August 5-8, 2012, Yokohama, Japan.
8. C.C.Liu, J.Lian, W.J.Li and Y.Yin "Cell Loading Problem of Assembly cell System", *2011 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2011)*, December 21-22, 2011, Sanya, Hainan, China.

9. I.Kaku, Y.Yu, J.F.Tang, J.Gong, C.G.Liu and Y.Yin "Several theoretical issues on line-cell conversion problem", *2011 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2011)*, December 21-22, 2011, Sanya, Hainan, China.
10. Y.Yu, J.F.Tang, J.Li, Y.Yin and I.Kaku "Complexity and improvement comparison of line-cell conversion problem with FCFS and SPT", *2011 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2011)*, December 21-22, 2011, Sanya, Hainan, China.
11. C.C.Liu, W.J.Li, J.Lian, Y.F.Bai, and Y.Yin "A mathematical model for reconstructing the conventional assembly system", *Industrial Engineering and Engineering Management (IE&EM), 2011 IEEE 18Th International Conference on*, pp. 1622-1626, Changchun, China, 3-5 Sept. 2011.
12. D.Jiang, T.Shinzato, I.Kaku, and Y.Yin "A mathematical model of product design through integral architecture" *21th International Conference on Production Research*, Electronic Proceedings. Stuttgart, Germany, 2011.

### Editor for international journals

1. Senior Editor, *Operations Management Education Review*
2. Executive Editor, *Asian Journal of Management Science and Applications*

### Editor for Japanese journals

1. Associate Editor, *The Journal of Japanese Operations Management and Strategy*
2. Area Editor, 日本経営工学会論文誌

### Positions in Academic Association 学会活動

1. President (2013-2015), *Asian Association of Management Science and Applications*
2. 理事 (2015-現在), オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 (JOMS A)

### Academic Awards

1. Outstanding Contribution Award, 2015, *Asian Conference of Management Science and Applications*
2. Best Paper Award, 2015, *Asian Conference of Management Science and Applications* (co-author)
3. Best Paper Award, 2013, *Asian Conference of Management Science and Applications* (co-author)
4. Young Scientist Prize, 2011, *International Conference on Production Research* (co-author)
5. Young Scientist Prize, 2011, *Asian Conference of Management Science and Applications* (co-author)

### Visiting Professor

中国西北工業大学、中国西安理工大学、中国南京理工大学



## **Kakenhi 科研費**

1. 挑戦的萌芽研究：製品アーキテクチャの最適設計・選択に関する数理分析 2015年4月1日～2018年3月31日 代表者
2. 若手研究(B)：日・米・中三カ国の製造業生産性に関する比較研究-セル生産を中心に 2010年4月1日～2013年3月31日 代表者
3. 基盤研究(C)：少子高齢社会におけるイノベーション創出と環境キンダガーデン・ルールの研究 2015年4月1日～2018年3月31日 分担者
4. 基盤研究(C)：創発的ビジネスモデルのイノベーション：事例の多角的分析 2015年4月1日～2018年3月31日 分担者

## **Tim Craig**

### Overview

Over my academic career I have conducted and published research and written in many areas: international business, management, popular culture, cross-cultural and social issues. In the past five years, I have focused on two research projects. The first is a series of case studies on Japanese cultural industries. Published and used in business school classrooms worldwide, these cases challenge students to wrestle with critical business issues faced by companies in Japan's cultural industries, and spread knowledge about Japanese culture and the country's cultural industries, including music, manga & anime, video games, traditional arts, food, and tourism. To date, two cases have been published by Ivey Publishing, two more have been completed and will be published in 2016, three are in the process of being written (research has been completed), and others are in the planning stage.

The second project is a sixteen-country study on "HR Climates" headed by Dr. Ali Dastmalchian of University of Victoria (Canada). (Website: <http://www.hrclimate.com>). I head the Japan research team, which has conducted executive interviews and an employee survey at 15 Japanese companies. I presented the Japanese data at a colloquium held at University of Victoria October 28-30, 2015, attended by the researchers from all participating countries. (Each country's data was presented.) A stream of international conference papers and journal publications to come from the project is being planned.

### **Published cases**

3. Tim Craig. "Anime News Network: Building a Sustainable Internet Business in a Niche Market." London, Ontario: Ivey Publishing, 2014. (Includes Teaching Note.)
4. Tim Craig, Philip Sugai, and Lukman Aroean. "Hatsune Miku: Japanese Virtual

Idol Ignites Global Value Co-creation.” London, Ontario: Ivey Publishing, 2015.  
(Includes Teaching Note.)

#### **Cases completed and to be published in 2016**

21. Tim Craig and Lauren Jubelt. “Johnny & Associates: Japanese Pop Idol Producer Faces a Changing World.” (Includes Teaching Note.)
22. Tim Craig, Daniel Cuellar, and Tawon Lirdluckanawong. “Square Enix: Keeping the Fantasy Alive.” (Includes Teaching Note.)

#### **Cases for which research has been completed and writing is in progress (as of November 2015)**

13. Tim Craig, “Toei Kyoto Studio Park: Tapping into Kyoto’s Tourism Boom.”
14. Tim Craig and Songyu Zhang, “AKB48: Too Japanese for Overseas Markets?”
15. Tim Craig, “Industrial Policy for Cultural Industries: The ‘Cool Japan’ Initiative.”

#### **Keith Jackson**

##### **Overview**

My current research areas include: Sustainable Human Resource Management; Leadership Development – comparing traditions and approaches in Europe, Asia and Africa; Asian Business and Management; Innovation and Public Sector Management Reform; Trends and Best Practices in Global Business Education.

My current *koken* research project develops a comparative view on Human Resource Management (HRM) responses to ageing societies in Germany and Japan – a research project that culminates in March 2016 with the publication of a Special Issue for the leading European journal *Management Revue*. My *koken* research for 2016 focuses on comparing approaches towards the design and delivery of programmes for business leadership development, comparing the impact of environmental factors in Japan, Europe (Germany, Switzerland, UK), The Middle East (Palestine, Dubai) and South Africa.

My consultancy work with companies and business schools in Europe, the Middle East and Asia currently focuses on themes such as cross-cultural communications, project team leadership, skills training and competence development for project team leaders, notably in the pharmaceuticals / life science industry. From January 2016 I will be co-leading a series of workshops (funded by the Daiwa Foundation) developing business leadership competencies simultaneously and transactionally among public sector workers in the UK and Japan. We will be developing customized structures of professional interaction and experience sharing drawn from pedagogically / andragogically adjusted gamification techniques.

#### **1. Publications:**

**Notes:** All publications listed below have been subject to double & blind peer review. Those dated '2016' are confirmed for publication during that year.

### 1.1. Academic publications (selected)

1. Jackson, K. (*forthcoming*) Business Networks in Japan: Enduring Trends, Emerging Patterns. In Warner, M. & J. Nolan (Eds.) *Business Networks in East Asian Capitalisms: Enduring Trends, Emerging Patterns* (Oxford: Chandos / Elsevier)
2. Jackson, K. (*forthcoming*) Education. In *The Encyclopedia of Social Theory* (New York: John Wiley)
3. Jackson, K. (*forthcoming*) Japanese Style Management. In *The Encyclopedia of Social Theory* (New York: John Wiley)
4. Jackson, K. & R. Ruiz-Tafoya (*forthcoming*) Inclusive Innovation or Inclusive Adaptation? Training Skills for Social Entrepreneurship in the Philippines. In Hunter, A., Mine, Y. & N. Agola (Eds.) *Inclusive Innovation for Sustainable Development* (London: Palgrave)
5. Hemmert, M. & K. Jackson (*forthcoming*) Is there an East Asian Model of Internationalization? A Comparative Analysis of Japanese and Korean Firms. In Fitzgerald, R. & C. Rowley (Eds.) *Japanese Multinational Companies in the Global Economy: Strategies, Management and Capabilities* Asian Pacific Business Review (Special Issue)
6. Jackson, K. (2016) Ageing Societies in Germany and Japan: Implications for International HRM Policy, Practice and Research. In Jackson, K. & P. Debroux (Eds.) *Ageing Societies: Comparing HRM Responses in Germany and Japan*.
7. Jackson, K. & P. Debroux (Eds.) (2016) *Ageing Societies: Comparing HRM Responses in Germany and Japan* Management Revue Special Issue (Dieslingen: Rainer Hammp Verlag)
8. Jackson, K. & H. Ruiz-Tefoya (2015) Inclusive Innovation Leading to Social Entrepreneurship: A Case Study of Nestlé's 'Business on Wheels' Initiative in The Philippines In N. Agola & A. Hunter (Eds.) *Inclusive Innovation for Sustainable Development* (Kyoto: Doshisha University)
9. Jackson, K. & P. Debroux (Eds.) (2009/2015) *Innovation in Japan: Emerging Patterns, Enduring Myths*. (New York: Routledge)
10. Jackson, K. (2013) East Asian Management: An Overview. In Warner, M. (Ed.) *Managing Across Diverse Cultures in Asia: Issues and Challenges in a Changing World* (London: Routledge)
11. Debroux, P., Harry, W., Hayashi, S., Hwang, H., Jackson, K. & T. Kiyomiya (2013) Japan, Korea and Taiwan: Issues and Trends in Human Resource Management. In Handbook of Research on Comparative Human Resource Management. Brewster, C. & W. Mayrhofer (EDs). (Cheltenham: Edward Elgar).
12. Jackson, K. (2012) Sustainable Work Systems: An Agenda for Future Research. In

- Ehnert, I. (Ed.) *Sustainability and Human Resource Management*, Special Issue: *Management Revue* (Dieslingen: Rainer Hammp)
13. Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) (2011). *Human Resource Management: The Key Concepts* (Abingdon: Routledge).
  14. Jackson, K. (2011) Models of HRM. In Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) *Human Resource Management: The Key Concepts*
  15. Jackson, K. (2011) Talent Management. In Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) *Human Resource Management: The Key Concepts*
  16. Jackson, K. & W. Harry (2011) Assessment. In Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) *Human Resource Management: The Key Concepts*
  17. Jackson, K. & W. Harry (2011) Contracts of Employment. In Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) *Human Resource Management: The Key Concepts*
  18. Jackson, K. & W. Harry (2011) Organisational Exit. In Rowley, C. & K. Jackson (Eds.) *Human Resource Management: The Key Concepts*
  19. Jackson, K. (2011) Trust in The Psychological Contract: An International Employee Perspective (*E-print*) (London: SOAS, University of London)

## 1.2 Teaching materials / textbooks / case studies (selected)

1. Jackson, K. & G. Khoury (*forthcoming*) *A Short Introduction to Practical Research* (Cambridge: Cambridge University Press)
2. Jackson, K., Kanai, T. & R. Suzuki (Eds.) (*forthcoming*): *Japanese Management: New Horizons*. (Abingdon: Routledge)
3. Jackson, K. & R. Rasheed (*forthcoming*) Communication, Culture and Conflict: Effective Leadership as Theory and Practice in a European-Palestinian NGO. In Normore, A., Long, L. & M. Javidi (Eds.) *Handbook of Effective Communication, Leadership and Conflict Resolution* (Hershey, PA. IGI Global)
4. Jackson, K., Arshynnikova, O., Gasser, N. & R. Harasyuk (2016) Lynchpin: From Diversity through Discord and Synergy to (Near) Derailment of a Japanese-Ukrainian Infrastructure Project in Barmeyer, C. & P. Franklin (Eds.) *Intercultural Management: European Case Studies - Achieving Synergy from Diversity* (London: Palgrave MacMillan)
5. Jackson, K. & R. Rasheed (2015) Communication, Culture and Discord: A Case Study of Avoidable Leadership Failure in a European-Palestinian NGO. In Khoury, G. & M. Khoury (Eds.) *Cases on Management and Organizational Behavior in An Arab Context* (Hershey, PA: IGI Global)
6. Jackson, K. (2013) Managing the Transnational Corporation. Centre for Financial & Management Studies, SOAS, University of London
7. Jackson, K. (2013) Managing Human Resources in Higher Education. Bilkent University (Turkey) / University of Nottingham (UK)
8. Jackson, K. (2007 / 2012) Cross-cultural Management. Centre for Financial &

Management Studies, SOAS, University of London

9. Jackson, K. & M. Tomioka (2003 / 2011) *The Changing Face of Japanese Management* (New York: Routledge)

**Review essays** (selected)

Jackson, K. (2016) Modelling Effective Leadership: Comparing Emic and Etic Approaches in Europe, the Middle East and North America. In *Asia Pacific Business Review* (London: Taylor Francis)

Jackson, K. (2014) Natural Disaster and Nuclear Crisis in Japan: Response and Recovery after Japan's 3/11 by J. Kingston (Ed.) (Abingdon: Routledge) In *Asia Pacific Business Review* (London: Taylor Francis)

Jackson, K. (2013) Routledge Handbook of South Asian Economics by Jha, R. (Ed.), (London / New York: Routledge) In *South Asian Journal of Global Business Research* (Bingley: Emerald Group)

Jackson, K. (2013) Japan in World History by J. L. Huffman (Oxford: OUP) In *Asia Pacific Business Review* (London: Taylor Francis)

Jackson, K. (2012) An Essay on Sustainable Work Systems: an Agenda for Future Research in Ehnert, I. & Harry, W. (Eds.) *Sustainability and Human Resource Management*, Special Issue: *Management Revue* 23, 3, pp. 296-309 (Dieslingen: Rainer Hammp)

Jackson, K. (2012) Innovation and Change in Japanese Management by P. Haghirian (Ed.) (Basingstoke: Palgrave Macmillan), Special Issue *Asia Pacific Business Review* 18 (2) pp.281-286 (Abingdon: Taylor Francis)

Jackson, K. (2011) Organizational Trust: A Cultural Perspective by M. Saunders, D. Skinner, G. Dietz, N. Gillespie & R. Lewicki (Eds.), (Cambridge: CUP), *Personnel Review* 40 (4) pp. 534-6 (Bingley: Emerald)

Jackson, K. (2011) Challenges of Human Resource Management in Japan by R. Bebenroth & T. Kanai (Eds.) Abingdon: Routledge) In *Asia Pacific Business Review* (London: Taylor Francis)

**2. Conference papers** (i.e. after joining Doshisha University in April 2014):

Recent conference papers have explored and connected a number of business and education themes: e.g.

- Jackson, K. (Keynote) *Global Business Education: Questions of Who? Whom? What? How? Why?* (XVIII Seminarios em Administracao Annual Conference, Sao Paulo, 5<sup>th</sup>-6<sup>th</sup> November, 2015).
- Jackson, K. *The Future of Global Business Education* (PPG-USP 40<sup>th</sup> Anniversary Conference, University of Sao Paulo, 4<sup>th</sup> November 2015).

- Jackson, K. *Developing Research Relevant to International Business Education* (PPG 40<sup>th</sup> Anniversary Research Seminar, University of Sao Paulo, 4<sup>th</sup> November 2015).
- Jackson, K. (with M. Hemmert) *Is there an East Asian Model of MNC Internationalization? A Comparative Analysis of Japanese and Korean Firms* (European-Asian Management Studies Association Annual Conference, London, 29<sup>th</sup>-31<sup>st</sup> October 2015).
- Jackson, K. *Changing Perceptions of Older and Younger Employees in Germany and Japan* (British Association for Japanese Studies Annual Conference, London, 10<sup>th</sup>-11<sup>th</sup> September 2015).
- Jackson, K. (with H. Ruiz-Tefoya) *Inclusive Innovation: A case study of the Nestlé 'Business on Wheels' Initiative in The Philippines* (Doshisha GRM International Conference, Kyoto, 11<sup>th</sup> – 12<sup>th</sup> July, 2015).

### 3. Academic activities (publishing)

#### 3.1 Editing / Reviewing:

2014- to date                      Editor, *Journal of Management Sciences*

2012- to date                      Editor, *South Asian Journal of Global Business Research*

2010- to date                      Reviews Editor, *China in Comparative Perspective Network*

2002- to date                      Reviews Editor, *Asia Pacific Business Review*

**Reviewer (books):**                *Elsevier, Cambridge University Press, Taylor Francis*

**Reviewer (journals):** *Asia Pacific Business Review, HRM Journal, Industrial Relations Journal, Management Revue, Personnel Review*

**Series co-editor:** Working in Asia / Asian Studies (Routledge)

### 4. Academic activities (professional):

2014 - to date: DBA programme convenor, AIM, Hong Kong

2012 - to date: Visiting Faculty, MSc International Marketing, UHA, Colmar, France

2012 - to date: External Examiner (MSc / MMI / MBA), Ashridge Business School, UK

2012 - to date: External Examiner, MBA, Human Academy Business School, Tokyo, Japan

2010 - to date: Visiting Faculty, MSc International Management, FHNW, Basel, Switzerland

2006 - to date: Examiner, University of London, External Programmes (MSc International Management / MSc Public Policy Management)

#### 4.1 Professional affiliations:

Since 2000: *Chartered Institute of Personnel and Development* (CIPD)

Since 2002: *First International Network of Trust Researchers* (FINT)

Since 2005: *Chartered Management Institute* (CMI)

## 松本茂

### 研究活動の概要

日本企業による海外 M&A を研究。買収後に撤退、売却した失敗案件、そして買収後に利益成長を実現した成功案件から成否の要因を分析。

### 出版業績

単著 松本茂 (2014)「海外企業買収 失敗の本質 戦略的アプローチ」『東洋経済新報社』全 234 頁.

単著 松本茂 (2015 年)「海外 M&A はなぜ失敗するのか。日本企業のグローバル経営を考える」『季刊ビジネスインサイト』第 22 巻第 4 号 pp 7-12

単著 松本茂 (2014)「海外大型案件で成功するには」『週刊東洋経済』第 6529 号 pp 70-71

単著 松本茂 (2014)「海外 M&A、5 つの罨」『週刊東洋経済』第 6529 号 pp 61

### 受賞

第 9 回 M&A フォーラム正賞 「海外企業買収 失敗の本質 戦略的アプローチ」 2015 年 M&A フォーラム (会長 東京大学名誉教授 落合 誠一)

### 学会

組織学会

## Manish SHARMA

### Overview

During 2010-2012, as head of the research team in the Corporate Finance Department of a major investment bank, I spearheaded numerous research papers and notes, covering sectors such as Industrials, TMT, Healthcare and Avionics, among others. Further I have also edited an in-house periodical on Indian economy. But most of that material remains confidential.

Currently, my research focuses on behavioral aspects of Indian capital market. In particular I am interested in identifying the cognitive biases that affect the market participants the most, and also enumerating their effects on the transactions. I am also working on another paper on the risk taking in emerging markets. I also intend to understand the demand for the neuro-related devices in financial sector.

### Academic Journal Papers

- Sharma, Manish (Dec. 2014). "Role of Small Banks in Early Industrialization of Japan," Indian Journal of Accounting, XLVI(2). (1-17)

### Conference Publications

- Sharma, Manish (Sept. 2015). “Sustainable Economic Development: The Asian Perspectives,” Social Sciences and Public Policy Conference 2015, Washington DC, USA.
- Sharma, Manish (Mar 2015). “Teaching Finance under Turbulent Times: Newer Approaches to understanding finance,” International Business Conference, The Clute Institute, San Juan, USA.
- Sharma, Manish (July 2012). “Risk Weighted Opportunities in Emerging Markets” S&P Investors’ Conference, Shangri-La, Tokyo, Japan

### **Adjunct Professor**

Temple University Japan Campus

### **Visiting Lectures**

Georgetown University, Seoul National University, Delhi University, Jiwaji University, Indian Institute of Technology- Delhi, Indian Management Institute

### **Corporate Lectures (About Indian Economy)**

Itochu, Honda Motors, Mitsui & Co., Shiseido, Mitsubishi Corp, Sumitomo Corp, NTT DoCoMo, Rakuten, Softbank, Nisshin, Nissha, Nippon Glass, Nippon Steel, Sumitomo Metals, Takeda Pharmaceuticals, Astellas Pharma, Daiichi-sankyou Pharma, Teva Japan, Kobe Steel, Ajinomoto, Asahi Kasei, Asahi Glass, Bridgestone, CSK Holdings, Daikin Industries, Dentsu, Eisai, Sumitomo Rubber, Fuji Television, Furukawa Electric, Inpex, IHI, Kansai Paint.

### **Investor’s Conference Speaker**

S&P, O’Melveny and Myers, Daiwa Securities, Nomura Research Institute, Bloomberg

### **Adam Johns (Research Overview 2011-2015)**

My research has primarily focused on the strategic responses of firms – specifically international marketing decisions – to global supply and demand dynamics and government policy, particularly in the cultural and creative industries. My current research project examines strategic place branding and production decisions of Japanese ‘cultural’ industries looking to internationalise (recipient of four-year (2015-2019) JSPS Grant-in-Aid). My former research project examined the extent to which firms can offshore production and still maintain the perceived ‘authenticity’ of culture-specific products (recipient of a three-year JSPS Grant-in-Aid).

### **Academic Journal Papers**

- A. Johns. **Contested Contestability? Competition policy and the development of the communications satellite broadcasting market in Japan**, *Business and Politics*, 14 (2), pp 1-19, August 2012.

### **Book Chapters**



A. Johns, with Vas Taras, David Berg, Carolyn Erdener, James Hagen, Greta Meszoely, Varina Paisely, Daria Panina, Rachel Clapp Smith, **More food for thought: Experiential Learning Projects**, in Vas Taras and Maria Alejandra Golzalez-Perez (eds) *Handbook of Experiential Learning in International Business*, Palgrave MacMillan, December 2014

## Conference Publications

1. A. Johns. **Offshoring, Entry Modes, and Country Brands - Do consumers care? An investigation into the perceived authenticity of European country-branded fashion and design products among Japanese consumers**, *Academy of International Business (AIB) Australia & New Zealand Chapter Annual Symposium*, 20-21 November 2015, Brisbane.
2. A. Johns. **Authenticated in Japan: Washoku in an era of global supply chains** in session *Arbiters of Authenticity and Place in Japanese Culinary Cultures*, European Association of Japanese Studies Triennial Conference, August 2014, Ljubljana
3. A. Johns. **Authenticity and Origin in Cultural and Creative Industries: Does production location matter to firms?** 18<sup>th</sup> Biennial International Conference on Cultural Economics, Association of Cultural Economics International, July 2014, Montreal
4. A. Johns. **Client-based international business project in Japan: Design and implementation of team-based experiential learning for undergraduate business students in a non-native language** in session *Engage them and They'll Understand: Existing Projects and Best Practices of Integrating Experiential Learning in International Business Curriculum*, Academy of International Business (AIB) Annual Conference, June 2014, Vancouver
5. A. Johns. **Delocalized production and product authenticity in creative industries: The role of "place" in food, fashion, and furniture**, presented at 2nd Asian Workshop on Cultural Economics, September 2013, Takamatsu/Naoshima
6. A. Johns. **An experiential learning market entry project** in session *Hands-On, Minds-On: Experiential Learning Projects in International Business Education*, Academy of International Business (AIB) Annual Conference, July 2013, Istanbul
7. A. Johns. **Authenticity and Place: The role of location and place in perceptions of product authenticity in cultural industries**, 17<sup>th</sup> Biennial International Conference on Cultural Economics, Association of Cultural Economics International, June 2012, Kyoto
8. A. Johns. **Vital assistance or vain intervention? Japanese government policy to promote the 'content industries' and industry responses** at Association of Japanese Business Studies (AJBS) – Paper Development Workshop. George Washington University, 28 June 2012, Washington DC

9. A. Johns, S. Brenton. **The effect of production location on perceptions of product authenticity in creative industries**, in Conference Proceedings of the 28<sup>th</sup> Annual Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA), November 2011, Gothenburg
10. A. Johns. **From Protection to Promotion: Development policies for content industries in Korea and Singapore**, at Japan Academy of International Business Studies (JAIBS) Annual Conference, October 2011, Toyama.
11. A. Johns. **Product authenticity and fragmented production: The case of 'Japanese' animation**, in panel session *Four Perspectives of Japanese Design* at the 10<sup>th</sup> Annual Conference of Asian Studies, 24-26 May 2011, Jerusalem

### Invited Lectures

1. A. Johns. **Authenticity and Provenance: Does 'country of origin' matter in a world of offshoring?** *Research Seminar Series, Musashi University Faculty of Economics*, 12 December 2015, Tokyo
2. A. Johns. **Delocalised production and country of origin in Italian Fashion and Danish Design: Does production location matter to firms?** *Research Seminar Series, Queensland University of Technology School of Advertising Marketing and Public Relations*, 31 October 2013, Brisbane
3. A. Johns. **Fritz Hansen of Poland, Prada of China: Can creative industries firms offshore production and retain authenticity?** *CLCS Seminar, Copenhagen Business School*, 18 September 2012, Copenhagen
4. A. Johns. **Remaking Japan through Authentic Transformations**, University of Queensland's Global Leadership Series "Remaking Japan", Sponsored by Japanese Government Cabinet Office 'JAPAN NEXT' initiative, 15 March 2012, Brisbane

### Reviewer

Academy of International Business (AIB) Annual Conference

Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA) Annual Conference

### Current Academic Memberships

Academy of International Business (AIB)

Association of Japanese Business Studies (AJBS)

Association of Cultural Economics International (ACEI)

Euro-Asia Management Studies Association (EAMSA)

European Association of Japanese Studies (EAJS)

## JSPS Grant-in-Aid (科研費)

1. JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (Individual, 'Grant-in-Aid for Young Scientists-B', 4 years)

Project number: 15K17130. Topic: *Place brands and the perceived authenticity of cultural and creative goods in international markets.*

Funds awarded: ¥3,900,000

2. JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (Individual, 'Grant-in-Aid for Young Scientists-B', 3 years).

Project number: 23730375. Topic: *Product authenticity and production offshoring in creative industries* 「クリエイティブ産業における生産拠点の海外移転と商品のオーセンティシティー」

Funds awarded: ¥2,340,000